

北海道大学シラバス					
■■ 科目名					
大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム					
■■ 講義題目					
教養深化特別演習（基礎）Ⅰ					
■■ 責任教員（所属）					
谷古宇 尚（大学院文学研究院）					
■■ 担当教員（所属）					
谷古宇 尚（大学院文学研究院）					
■■ 科目種別	大学院共通授業科目			■■ 他学部履修等の可否	可
■■ 開講年度	2019	■■ 期間	1 学期（夏ターム）	■■ 時間割番号	101411
■■ 授業形態	演習	■■ 単位数	1	■■ 対象年次	～
■■ 対象学科・クラス				■■ 補足事項	
■■ ナンバリングコード	IGS_HSS 5110				
■■ 大分類コード	■■ 大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
■■ レベルコード	■■ レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
■■ 中分類コード	■■ 中分類名称				
1	人文科学				
■■ 小分類コード	■■ 小分類名称				
1	芸術学				
■■ 言語					
日本語で行う授業					

## ■■ キーワード

古典, 人文学, 学際性

## ■■ 授業の目標

大学院生は自分の専門分野の中で課題を設定して研究を行うが、人文学や社会科学の専門分野は本来であれば別々に孤立したものではなく、方法論や取り扱う素材など共通する点、あるいは相互に参照すべき点があるはずである。本授業は、こうしたとに気づく機会を与えてくれる古典的な著作を読み議論する。

## 到達目標

自分の専門と異なる分野の著作からも重要な視点を学び、自分の研究をより豊かなものとすることができるようになるとともに、幅広い文脈の中で、あるいは社会とのかかわりの中で自分の研究を位置づけられるようになる。

## 授業計画

1. ガイダンス
2. オギュスタン・ベルク『風土の日本』
3. アンリ・フォション『かたちの生命』
4. クロード・レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』
5. 芳賀徹『絵画の領分—近代日本比較文化史研究』
6. 李恢成『サハリンへの旅』
7. 下村寅太郎『アッシジのフランス研究』
8. まとめ

## 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

予習：テキストを読み、授業中の議論に備える。

復習：授業の内容を自分でまとめる。

## 成績評価の基準と方法

発表40%、議論への参加30%、レポート30%。

## テキスト・教科書

## 講義指定図書

## 参照ホームページ

## 研究室のホームページ

## 備考

## 更新日時

2019/01/31 16:24:57

北海道大学シラバス					
■■ 科目名					
大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム					
■■ 講義題目					
教養深化特別演習（基礎）Ⅱ					
■■ 責任教員（所属）					
川口 暁弘（大学院文学研究院）					
■■ 担当教員（所属）					
川口 暁弘（大学院文学研究院）					
■■ 科目種別	大学院共通授業科目			■■ 他学部履修等の可否	可
■■ 開講年度	2019	■■ 期間	2 学期（秋ターム）	■■ 時間割番号	101412
■■ 授業形態	演習	■■ 単位数	1	■■ 対象年次	～
■■ 対象学科・クラス				■■ 補足事項	
■■ ナンバリングコード	IGS_HSS 5140				
■■ 大分類コード	■■ 大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
■■ レベルコード	■■ レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
■■ 中分類コード	■■ 中分類名称				
1	人文科学				
■■ 小分類コード	■■ 小分類名称				
4	史学				
■■ 言語					
日本語で行う授業					

## ■■ キーワード

教養、古典、人文学

## ■■ 授業の目標

すぐれた作品・文献で多くの人に長く読み継がれてきたものとしての一般教養的な「古典」が文化や知性の源泉であるように、学術領域においても研究の根幹を形作る、基本文献としての専門的「古典」があるはずである。この授業では、人文科学の諸領域を中心に講義の「古典」と呼んで良いような文献を読み、新しい知的世界の扉を開く体験を重ねていく。

少数の受講者間での内容報告と討論をつうじて、自分の専攻とは異なる他分野の「古典」について理解し説明する能力を培う。

## ■■ 到達目標

- 1) 自分の専攻の「古典」や、自分の専攻とは異なる他分野の「古典」を、精確に読解することができる。
- 2) 自分の専攻の「古典」を、専攻の異なる他者に対して正確に分かりやすく説明することができる。
- 3) 自分の専攻とは異なる他分野の「古典」を、他者に対して正確に分かりやすく説明することができる。

#### ■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス：古典を読む意味とは何か。古典とは何か。
- 第2回 丸山眞男『日本の思想』
- 第3回 柳田国男『明治大正史世相編』
- 第4回 福田恒存『人間・この劇的なもの』
- 第5回 白川静『漢字』
- 第6回 石川九揚『筆蝕の構造』
- 第7回 中村真一郎『文章読本』
- 第8回 総括

#### ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

【予習】資料を読んで内容を理解すること。

【復習】講義内容を踏まえて、資料を再読すること。

#### ■ 成績評価の基準と方法

日常の学修態度と、最終回で課すレポートによる総合評価。

#### ■ テキスト・教科書

[『日本の思想』 / 丸山眞男：岩波書店, 1961, ISBN:9784004120391](#)

[『明治大正史世相編』 / 柳田国男：講談社, 1993, ISBN:4061590820](#)

[『人間・この劇的なもの』 / 福田恒存：新潮社, 1960, ISBN:4101216029](#)

白川静『漢字』岩波書店、1970年、ISBN-10: 4004120950 ISBN-13: 978-4004120957 石川九揚『筆蝕の構造』筑摩書房、2003年、ISBN-10: 4480087346 ISBN-13: 978-4480087348 中村真一郎『文章読本』新潮社、1982年、ISBN-10: 4101071039 ISBN-13: 978-4101071039

#### ■ 講義指定図書

#### ■ 参照ホームページ

#### ■ 研究室のホームページ

#### ■ 備考

教養深化プログラム生として認められた者に限り履修登録を認める。

履修者への連絡手段として、ELMSポータル(教育情報システム)(Educational Information System)を使用するので、履修者はあらかじめ、ELMSのIDを取得し、メールアドレスを登録しておく必要がある。

#### ■ 更新日時

2019/05/30 11:59:20

北海道大学シラバス					
■■ 科目名					
大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム					
■■ 講義題目					
教養深化特別演習（基礎）Ⅲ					
■■ 責任教員（所属）					
佐藤 健太郎（大学院文学研究院）					
■■ 担当教員（所属）					
佐藤 健太郎（大学院文学研究院）					
■■ 科目種別	大学院共通授業科目			■■ 他学部履修等の可否	可
■■ 開講年度	2019	■■ 期間	1 学期（夏ターム）	■■ 時間割番号	101413
■■ 授業形態	演習	■■ 単位数	1	■■ 対象年次	～
■■ 対象学科・クラス				■■ 補足事項	
■■ ナンバリングコード	IGS_HSS 5140				
■■ 大分類コード	■■ 大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
■■ レベルコード	■■ レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
■■ 中分類コード	■■ 中分類名称				
1	人文科学				
■■ 小分類コード	■■ 小分類名称				
4	史学				
■■ 言語					
日本語で行う授業					

## ■■ キーワード

古典、人文学

## ■■ 授業の目標

人文学の著作の中には、研究者のみならず幅広い読者によって長く読み継がれてきた「古典」ともいえるものがある。人間の歴史・文化・社会についての深い理解へと読者を誘ってくれるこれらの「古典」を受講者全員で読みながら、現代社会を生きていくための教養を身につける。

## ■■ 到達目標

自分自身の専門分野のみならず様々な分野の人文学の知を通して、現代社会を広い視野から理解し論じることができるようになる。

## ■ 授業計画

初回授業でガイダンスを行い、その後は各回に一点ずつ古典を取り上げる。各回の担当者は、内容の概略を報告した上で、授業中のディスカッションでとりあげたい論点を提示してもらおう。提示された論点を中心に受講者全員でディスカッションをおこなう。

- 1 ガイダンス
- 2 伊東俊太郎『近代科学の源流』を読む
- 3 E.W.サイード『オリエンタリズム』を読む
- 4 川田順造『無文字社会の歴史』を読む
- 5 臼杵陽『見えざるユダヤ人』を読む
- 6 片倉もとこ『イスラームの日常世界』を読む
- 7 杉山正明『遊牧民から見た世界史』を読む
- 8 まとめ

## ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

テキストの綿密な予習が不可欠である。

## ■ 成績評価の基準と方法

担当回の報告内容、および授業中のディスカッションでの平常点により評価する。

## ■ テキスト・教科書

初回授業時に取り上げる文献を配布する。

## ■ 講義指定図書

## ■ 参照ホームページ

## ■ 研究室のホームページ

## ■ 備考

## ■ 更新日時

2019/02/01 10:59:21

北海道大学シラバス					
<b>科目名</b> 大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム					
<b>講義題目</b> 教養深化特別演習（基礎）Ⅳ					
<b>責任教員（所属）</b> 中村 三春（大学院文学研究院）					
<b>担当教員（所属）</b> 中村 三春（大学院文学研究院）					
<b>科目種別</b>	大学院共通授業科目			<b>他学部履修等の可否</b>	可
<b>開講年度</b>	2019	<b>期間</b>	2学期（秋ターム）	<b>時間割番号</b>	101414
<b>授業形態</b>	演習	<b>単位数</b>	1	<b>対象年次</b>	～
<b>対象学科・クラス</b>				<b>補足事項</b>	
<b>ナンバリングコード</b>	IGS_HSS 5120				
<b>大分類コード</b>	<b>大分類名称</b>				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
<b>レベルコード</b>	<b>レベル</b>				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
<b>中分類コード</b>	<b>中分類名称</b>				
1	人文科学				
<b>小分類コード</b>	<b>小分類名称</b>				
2	文学				
<b>言語</b> 日本語で行う授業					

**キーワード**

古典 文化人類学 ナショナリズム 哲学 フェミニズム 文学

**授業の目標**

古典作品を読み解き、その内容を理解して身につけるとともに、自分の専攻テーマとの関わりにおいて独自に展開することができる。

**到達目標**

古典作品を読解し、読解内容を書評形式で文章にまとめ、効果的にプレゼンテーションすることができる。他の発表者の発表内容についての的確にコメントし、自分の担当内容を最終レポートに適切にまとめることができる。

## ■ 授業計画

- 1 ガイダンス：古典を読む意味・古典とは何か
- 2 山口昌男『文化と両義性』を読む
- 3 B・アンダーソン『想像の共同体』を読む
- 4 唐木順三『無常』を読む
- 5 野矢茂樹『語りえぬものを語る』を読む
- 6 V・ウルフ『自分ひとりの部屋』を読む
- 7 テオドール・W・アドルノ『プリズメン』を読む
- 8 総括・レビューと推敲

## ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

【予習】あらかじめテキストの作品を読んでおくこと（毎週1時間）。担当者は事前に演習内容を準備すること。  
【復習】感想レポートを執筆し提出すること（毎週1時間）。

## ■ 成績評価の基準と方法

### 【基準】

平常点：感想レポートの提出の有無によって評価する。

期末評価：平常点に加え、最終レポートの内容的水準によって評価する。

### 【方法】

平常点（30%）：毎回の感想レポート提出

最終レポート（70%）：担当課題についてのレポート提出

いずれもELMSを利用して提出する。

## ■ テキスト・教科書

取り上げる作品の該当箇所のコピーを配付する。

## ■ 講義指定図書

## ■ 参照ホームページ

## ■ 研究室のホームページ

<http://projectm.s500.xrea.com/>

「レポート・論文の書き方」など「研究アドバイス集」を掲載。

## ■ 備考

教育情報システムELMSを利用する。

教養深化プログラム生として認められた者に限り履修登録を認める。

## ■ 更新日時

2019/05/30 11:53:54



北海道大学シラバス					
■■ 科目名					
大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム					
■■ 講義題目					
教養深化特別演習（基礎）Ⅴ					
■■ 責任教員（所属）					
加藤 重広（大学院文学研究院）					
■■ 担当教員（所属）					
加藤 重広（大学院文学研究院）					
■■ 科目種別	大学院共通授業科目			■■ 他学部履修等の可否	不可
■■ 開講年度	2019	■■ 期間	2 学期（冬ターム）	■■ 時間割番号	101415
■■ 授業形態	演習	■■ 単位数	1	■■ 対象年次	～
■■ 対象学科・クラス				■■ 補足事項	
■■ ナンバリングコード	IGS_HSS 5130				
■■ 大分類コード	■■ 大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
■■ レベルコード	■■ レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
■■ 中分類コード	■■ 中分類名称				
1	人文科学				
■■ 小分類コード	■■ 小分類名称				
3	言語学				
■■ 言語					
日本語で行う授業					

## ■■ キーワード

文章技巧, 文書作成, 構成

## ■■ 授業の目標

実社会で求められる基礎能力の一つに、調査資料の作成・報告書や企画書の作成など文書の作成技能がある。専門論文の執筆でもこの種の文書の作成でも基礎にあるのは「達意の日本語を書く力」であるが、論文に一定の方法や決まりがあるように、個々の文書の作成方法にも方法論がある。その基礎となる考え方や方法論、表現技巧などを学ぶことで、広範な実務的技術の中心となる「書く力」を身につけることを目標とする。

## ■■ 到達目標

実際に文章を書くことで、表現形式とそれが解釈に及ぼす効果を学ぶ。また、文書の効果的な表現に必要な方法を活用しながらさまざまな文章を書く訓練をおこなう。段階的な訓練によって、目的の異なる文書についての考え方や効果的な表現の方法についてその基礎が身につくことを到達目標とする。

#### ■ 授業計画

- 第1回 表現技巧とは何か、文書とはなにか（全体のガイダンス）
- 第2回 文章表現の形式と表現法の基礎知識、この文章はどこがまずいのか、見てみよう。
- 第3回 構成と論理と説得力・感性と訴求力・冗長性の制御・メモの技術
- 第4回 日本語の特性と文章作成・必要な情報と表現（理解・提案・報告）
- 第5回 文書に求められる文体と叙法、「私」のない叙述と「私」を際立たせる表現
- 第6回 比喩と引用、表現性と明晰性、例え話のリスク、挿話の技法、抑制と制御の構成
- 第7回 反論と共感、実用性と実務性、読み手に抱かせる感情を予測しながら書く
- 第8回 総括

#### ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

事前に指示をおこなう。課題提出がある。

#### ■ 成績評価の基準と方法

演習の中での取り組み（25%）、各個別課題の提出状況と完成度(50%)、演習における活動状況など(25%)の平素点を点数化して評価をおこなう。

#### ■ テキスト・教科書

#### ■ 講義指定図書

#### ■ 参照ホームページ

#### ■ 研究室のホームページ

#### ■ 備考

この授業は日本語を母語とする大学院生を対象としている。  
教養深化プログラム生として認められた者に限り履修登録を認める。

#### ■ 更新日時

2019/05/30 11:49:52

北海道大学シラバス					
<b>科目名</b> 大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム					
<b>講義題目</b> 教養深化特別演習（基礎）VI					
<b>責任教員（所属）</b> 藏田 伸雄（大学院文学研究院）					
<b>担当教員（所属）</b> 藏田 伸雄（大学院文学研究院）					
<b>科目種別</b>	大学院共通授業科目			<b>他学部履修等の可否</b>	可
<b>開講年度</b>	2019	<b>期間</b>	1 学期	<b>時間割番号</b>	101416
<b>授業形態</b>	演習	<b>単位数</b>	1	<b>対象年次</b>	～
<b>対象学科・クラス</b>				<b>補足事項</b>	
<b>ナンバリングコード</b>	IGS_HSS 5120				
<b>大分類コード</b>	<b>大分類名称</b>				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
<b>レベルコード</b>	<b>レベル</b>				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
<b>中分類コード</b>	<b>中分類名称</b>				
1	人文科学				
<b>小分類コード</b>	<b>小分類名称</b>				
2	文学				
<b>言語</b> 日本語で行う授業					

**キーワード**

専門知、プレゼン、伝えること、説明術

**授業の目標**

先端的で高度な研究成果は、社会全体において理解してもらえる範囲を狭めることにもなる。専門的で高度な内容を、それほど知識を持たない人たちに伝え、価値を認めてもらうには、理解してもらえる伝える技能が必要であり、それが高度人材に求められるものでもある。その面白さをわかりやすく伝える技術は、専門の世界を専門以外の世界に通じる「なかだち」の役割を担うもので、これからの時代に必要とされる技能を養うことを目的とする。

**到達目標**

研究者のコミュニティ（学会や研究会）とは異なる、開かれた世界への発信を念頭に専門知識を誰にでもわかるように伝える技能を実習的に涵養する。また、わかりやすく伝えるためのプレゼン技術も実践的に身につける。科学コミュニケーター的能力・技能に相当する、人文コミュニケーターの能力や技能を養うことを目標とする。専門的な話を聞き、再構成する「取材技能」、それをわかりやすく伝えていく「表現技能」を習得することを目指す。

#### ■ 授業計画

「専門知の面白さを伝えるプレゼン術」

- 1 専門知をわかるように加工する（ガイダンス）
- 2 よいプレゼンと悪いプレゼン・パワーポイントなどの効果的使用術
- 3 専門知を正確に理解し、うまくまとめる技術と実習
- 4 専門知を理解するための取材術と質問技法・聞く技術と実習
- 5 専門知をうまく伝えるための構成と技法、外に広げるための補足と実習
- 6 専門知を効果的に伝えるための説明術と話す技法と実習
- 7 専門知を活用するための視点と技法、理解の裾野を広げる展開と実習
- 8 総括・レビューと推敲

#### ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

授業の後半は実習となるため、実際に他の研究者（受講生）に取材し、その内容をまとめて発表してもらう。そのための作業に4-5時間必要になると思われる。終了後には成果をレポートにまとめ提出してもらう。

#### ■ 成績評価の基準と方法

演習の中での取り組み（25%）、各個別課題の提出状況と完成度(50%)、演習における活動状況など(他の受講生に対する質問など：25%)の平素点を点数化して評価をおこなう。

#### ■ テキスト・教科書

#### ■ 講義指定図書

[プレゼンテーションZen\(第2版\) / ガー・レイノルズ著 ; 熊谷小百合訳, 2014, ISBN:9784621066034](#)

#### ■ 参照ホームページ

#### ■ 研究室のホームページ

#### ■ 備考

教養深化プログラム登録生に受講を限定する。

#### ■ 更新日時

2019/02/01 01:06:56

北海道大学シラバス					
<b>科目名</b> 大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム					
<b>講義題目</b> サイエンスリテラシー特別演習 I					
<b>責任教員（所属）</b> 藏田 伸雄（大学院文学研究院）					
<b>担当教員（所属）</b> 藏田 伸雄（大学院文学研究院） 種村 剛（高等教育推進機構）					
<b>科目種別</b>	大学院共通授業科目			<b>他学部履修等の可否</b>	可
<b>開講年度</b>	2019	<b>期間</b>	2 学期（秋ターム）	<b>時間割番号</b>	101408
<b>授業形態</b>	演習	<b>単位数</b>	1	<b>対象年次</b>	～
<b>対象学科・クラス</b>				<b>補足事項</b>	
<b>ナンバリングコード</b>	IGS_IDS 5100				
<b>大分類コード</b>	<b>大分類名称</b>				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
<b>レベルコード</b>	<b>レベル</b>				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
<b>中分類コード</b>	<b>中分類名称</b>				
1	学術コミュニケーション・リテラシー				
<b>小分類コード</b>	<b>小分類名称</b>				
0	科学教育				
<b>言語</b> 日本語で行う授業					

**キーワード**

科学コミュニケーション、科学と社会、科学と人文科学・社会科学、インタビュー

**授業の目標**

人文科学や社会科学の学生にとって「自然科学」は遠い存在ではあるが、自然科学は社会と様々な点で接点をもつ。そして、そこでどのような問題が生じているのかを認識し、さらにそれを伝えていく場面で、人文社会科学の素養が有益に作用する場面がある。

科学を伝えるという場面で、学生が人文社会科学の知見を生かすことができるようになることを目的とする。

**到達目標**

- ・人文科学・社会科学の専門的知識を実践的に用いようとする意識を身につける。
- ・自分の専門的知識をもとにして科学技術(あるいは専門外の知識)を理解する力を身につける。
- ・資料を読み、質問を考え、インタビューをして、それを文章にまとめる力を身につける。
- ・自分が理解しづらい内容について、どのように質問すれば理解できるようになるのかを考えつつ質問する力を身につける。
- ・科学について自分の理解した範囲の内容を的確に伝えるスキルを身につける

#### ■ 授業計画

北大を代表する第一線の科学者にチームに分かれて集団でインタビューし、インタビューと科学者とのディスカッションをもとに5000字程度で「科学と社会」との関わりについての記事を書くことを目標にする。さらにインタビュー終了後、5000字程度の「(論説)記事」を書く。受講生は自分の専門を意識しつつ、記事を作成する(思想としての科学、科学と宗教、科学と文学・ナラティブ、科学と歴史、研究者と社会、研究者の認知、科学と経済、科学と法、科学と教育、科学とメディア等)。

- 1.ガイダンス
- 2.インタビューのスキルと心構え
- 3.科学者による講義
- 4.科学者向け企画書作成と問の作成
- 5.科学者へのインタビューと科学者を囲んだディスカッション
- 6.インタビューをまとめる/アウトライン相互チェック
- 7.ドラフト相互チェック
- 8.発表

#### ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

企画書の作成と質問の作成の準備には2-5時間程度が必要になると思われる。さらに記事の作成のために5-10時間は必要になると思われる。

#### ■ 成績評価の基準と方法

作成された記事に対する評価、最後のプレゼンテーションに対する評価、さらにインタビューの際の態度、ディスカッションへの貢献度をもとに評価する。

#### ■ テキスト・教科書

#### ■ 講義指定図書

#### ■ 参照ホームページ

#### ■ 研究室のホームページ

#### ■ 備考

教養深化プログラム生として認められた者に限り履修登録を認める。

#### ■ 更新日時

2019/05/30 12:12:19

北海道大学シラバス					
■ ■ 科目名					
大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム					
■ ■ 講義題目					
サイエンスリテラシー特別演習Ⅱ					
■ ■ 責任教員（所属）					
大沼 進（大学院文学研究院）					
■ ■ 担当教員（所属）					
大沼 進（大学院文学研究院） 中島 晃（大学院文学研究院）					
■ ■ 科目種別	大学院共通授業科目			■ ■ 他学部履修等の可否	可
■ ■ 開講年度	2019	■ ■ 期間	2 学期（秋ターム）	■ ■ 時間割番号	101409
■ ■ 授業形態	演習	■ ■ 単位数	1	■ ■ 対象年次	～
■ ■ 対象学科・クラス				■ ■ 補足事項	
■ ■ ナンバリングコード	IGS_IDS 5110				
■ ■ 大分類コード	■ ■ 大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
■ ■ レベルコード	■ ■ レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
■ ■ 中分類コード	■ ■ 中分類名称				
1	学術コミュニケーション・リテラシー				
■ ■ 小分類コード	■ ■ 小分類名称				
1	情報教育				
■ ■ 言語					
日本語で行う授業					

## ■ ■ キーワード

サイエンスリテラシー、人文社会科学のための統計学、歪み

## ■ ■ 授業の目標

データは実証的で説得力のある証拠だが、データを収集・整理する過程で意図せざる「歪み」が生じる場合もある。一方、適切に分析すれば、測定段階で生じてしまう「歪み」を補正することもできる。この授業では、「歪み」と上手に付き合い、使いこなす術を身につけることを目標とする。

## ■ ■ 到達目標

文系学生でも数字への抵抗感・拒否反応をなくすることが最低限の到達目標である。さらに、データと向き合うことの面白さと難しさを実感することが次の到達目標になる。最終的には、日常的に目にする社会に溢れるデータに対して、自ら積極的に読み解いたり、解釈したりできるようになることが到達目標である。

#### ■ 授業計画

授業は、1つのテーマにつき、講義1コマと演習・実習（グループ・ワーク等）1コマで進めていく。具体的には次の4つのテーマを用意している

1. 『データでウソをつく』を見抜く
2. 平均とばらつき：馴染みのあるデータ整理法の落とし穴
3. 相関と因果：風が吹けば桶屋が儲かる
4. データの見える化とデータの凝縮

なお、グループ・ワークには、調べたりまとめたりしたことの発表も含まれる。

#### ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

復習に重点が置かれる。各課題に関連する内容を調べたり取りまとめたりすることが求められる。

#### ■ 成績評価の基準と方法

4回の演習・実習の作業（発表を含む）で評価する。そのテーマをよく理解し、適切な例を見つけ、その問題等をうまく伝えられているかどうかを判断する。

#### ■ テキスト・教科書

#### ■ 講義指定図書

[統計でウソをつく法 数式を使わない統計学入門 / ダレル・ハフ：講談社, 1968, ISBN:978-4061177208](#)  
[実践としての統計学 / 佐伯胖・松原望：東京大学出版会, 2000, ISBN:978-4130420709](#)  
[世論調査で社会が読めるかー事例による社会調査入門 / 平松貞実：新曜社, 1998, ISBN:4-7885-0640-8](#)  
[基準値のからくり / 村上道夫、永井孝志、小野恭子、岸本充生：講談社, 2014, ISBN:978-4062578684](#)

#### ■ 参照ホームページ

#### ■ 研究室のホームページ

#### ■ 備考

教養深化プログラム生として認められた者に限り履修登録を認める。

#### ■ 更新日時

2019/05/30 12:00:50



北海道大学シラバス					
<b>科目名</b> 大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム					
<b>講義題目</b> サイエンスリテラシー特別演習Ⅲ					
<b>責任教員（所属）</b> 大沼 進（大学院文学研究院）					
<b>担当教員（所属）</b> 大沼 進（大学院文学研究院）					
<b>科目種別</b>	大学院共通授業科目			<b>他学部履修等の可否</b>	可
<b>開講年度</b>	2019	<b>期間</b>	1 学期	<b>時間割番号</b>	101410
<b>授業形態</b>	演習	<b>単位数</b>	1	<b>対象年次</b>	～
<b>対象学科・クラス</b>				<b>補足事項</b>	
<b>ナンバリングコード</b>	IGS_IDS 5000				
<b>大分類コード</b>	<b>大分類名称</b>				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
<b>レベルコード</b>	<b>レベル</b>				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
<b>中分類コード</b>	<b>中分類名称</b>				
0	複合科学				
<b>小分類コード</b>	<b>小分類名称</b>				
0	デザイン学				
<b>言語</b> 日本語で行う授業					

#### キーワード

プレゼンテーションスキル、視覚表現、画像・映像処理, Creative Cloud

#### 授業の目標

プレゼンテーション、各種デザインから写真・動画投稿にいたるまで、デジタルコンテンツのビジュアル表現に必要とされる基礎技術を理解し、実際に活用できるようにします。

#### 到達目標

- ・ビジュアル表現を構成する要素がどのようなものであるかを理解する。
- ・文字表現、写真表現、色彩設計、レイアウト技法などの各構成要素で使用されるデジタルクリエイティブ技術を理解する。
- ・画像編集、レイアウト、映像コンテンツの制作などを体験し、ビジュアル表現の活用方法を体感する。

## ■ 授業計画

講師にアドビシステムズの近藤祐爾氏を迎えておこなう。

1回2コマ、計4回実施する。

- 1) ビジュアル表現概論（講義）・・・ビジュアル表現を構成する要素を俯瞰します。文字表現、写真表現、色彩設計、レイアウト技法、導線設計、インタラクションなどの構成要素を支える技術の役割を理解します。
- 2) 構成+レイアウト+造形+色彩（演習）・・・ビジュアル表現の全体構成について学びます。印刷物やデジタルコンテンツにおけるレイアウト技法を学び、各構成要素がどのように機能するのかを理解します。
- 3) 画像処理概論（講義）・・・現在のビジュアル表現で特に多用される写真表現、画像処理について学びます。画像形式ごとの特性や画像処理の仕組みについて理解します。
- 4) 画像処理（演習）・・・画像処理の基礎として、色調補正、画像加工、切り抜きなどの画像編集の演習を行います。
- 5) タイポグラフィ概論（講義）・・・文字表現としてのタイポグラフィについて理解します。フォント形式、書体の歴史や使用法、組版や文字化けについて学びます。
- 6) タイポグラフィ（演習）・・・タイポグラフィの実践演習を行います。書体（フォント）の選択、サイズや字間・行間の調整、文字と画像の配置方法などによる視覚的影響について学びます。
- 7) 映像制作概論（講義）・・・映像コンテンツを支えるデジタル技術の基礎について学びます。映像編集の基本的な考え方、特殊効果、アニメーションや映像をデジタルで扱う際に重要となるエンコード技術について理解します。
- 8) 映像制作（演習）・・・撮影された映像素材や静止画を用いて、基本的なカット編集と静止画と文字によるモーショングラフィック・アニメーションを演習を通じて学びます。

## ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

その日の授業で行った内容について、自身の興味・関心に即して応用を試みる事が求められる。

## ■ 成績評価の基準と方法

演習課題の提出物により評価する。以下の評価軸に沿って採点する。

- （デザイン：目的合致性）情報設計をしているか、情報設計通りにビジュアル表現に落とし込んでいるか
- （構成、レイアウト）内容の伝わりやすさ、印象づけなど意図した構成をしているか、導線設計を意識しているか
- （画像処理）使用画像が情報設計に適合しているか、適切な画像処理がされているか、適切な画像形式で配置されているか
- （造形）グラフィック要素やアイコン、図版などの造形が適切に作られているか
- （色彩設計）カラーモードが適切か、配色が適切で工夫されているか、色の管理がされているか
- （タイポグラフィ）文字表現が目的に合致しているか、適切に処理されているか
- （エラー対処）正しく再現できる納品データになっているか、出力エラーが出ないように作られているか
- （コミュニケーション）正しく出力するためのコミュニケーションが取れているか、出力仕様書の記入が正しくできているか

## ■ テキスト・教科書

## ■ 講義指定図書

資料は授業のなかで配布する。参考書は個別に授業内で紹介する。

## ■ 参照ホームページ

<https://adobe.ly/2FOiO6>

## ■ 研究室のホームページ

## ■ 備考

持ち込みのノートパソコンを必須とする（難しい場合は要相談）。  
PCにはCreative Cloudをインストールしておくこと。  
詳細はオリエンテーション時に説明する。

■ ■ 更新日時

2019/01/31 17:24:11

北海道大学シラバス					
■ ■ 科目名					
大学院共通授業科目（一般科目）：複合領域					
■ ■ 講義題目					
ジェネリックスキル特別演習～キャリア形成					
■ ■ 責任教員（所属）					
川口 暁弘(大学院文学研究院)					
■ ■ 担当教員（所属）					
川口 暁弘(大学院文学研究院) 樋口 直樹(人材育成本部) 吉原 拓也(人材育成本部)					
■ ■ 科目種別	大学院共通授業科目			■ ■ 他学部履修等の可否	可
■ ■ 開講年度	2019	■ ■ 期間	通年	■ ■ 時間割番号	101417
■ ■ 授業形態	演習	■ ■ 単位数	1	■ ■ 対象年次	～
■ ■ 対象学科・クラス				■ ■ 補足事項	
■ ■ ナンバリングコード	IGS_IDS 9210				
■ ■ 大分類コード	■ ■ 大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
■ ■ レベルコード	■ ■ レベル				
9	その他（海外への留学を内容とするものなど、レベル分けが出来ない科目）				
■ ■ 中分類コード	■ ■ 中分類名称				
2	キャリアマネジメント				
■ ■ 小分類コード	■ ■ 小分類名称				
1	キャリア開発				
■ ■ 言語					
日本語で行う授業					

## ■ ■ キーワード

キャリア形成、ジェネリックスキル、知的財産権、プロジェクトファシリテーション、アントレプレナーシップ、交渉学

## ■ ■ 授業の目標

修士課程・博士後期課程修了後のキャリア形成に備えて、ジェネリックスキルを習得する。

## ■ ■ 到達目標

・人材育成本部が主催するキャリアパス多様化支援セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲを受講して、キャリア形成に必要な、知識と技能（知的財産権、交渉学、プロジェクトファシリテーション、アントレプレナーシップなど）について学び、実践することができる。

・人材育成本部が主催するA-COLAを受講して、講師から企業活動の実態について学び、キャリア形成の指針として生かすことができる。

#### ■ 授業計画

○ガイダンス (川口・45分)

○キャリアパス多様化支援セミナーは講師手配の都合上毎年変更がある。平成30年度実績を例示すれば下記のとおりである。

I 知的財産権・ガイダンス (20分) ・講演① (60分) ・講演② (60分) ・講演③ (60分) ・パネルディスカッション (60分)

II プロジェクトファシリテーション・基調講演 (40分) ・ファシリテーション演習 (140分) ・クロージング&質疑応答 (50分)

III 交渉学講義 (90分) ・演習および質疑応答 (180分)

○A-COLAは、企業で活躍する人文・社会科学系大学院の博士課程修了者を講師として招き、博士号取得後のキャリアパスについて知見を広げることを目的として開催される。平成30年度実績を例示すれば下記のとおりである。

・開会挨拶およびガイダンス (30分) ・講演① (45分) ・講演② (45分) ・講演③ (45分) ・パネルディスカッション (45分)

なお、講師手配の事情などによりA-COLAを開催できない場合は、人材育成本部が実施する「キャリアマネジメントセミナー(演習) ビジネスマナーの基本と実践」を以てこれにかえる。

○総括 (川口・45分)

#### ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

【予習】事前に資料を配付するので、よく読んでから講義に臨むこと。

【復習】講義内容を纏め、レポート作成に備えること。

#### ■ 成績評価の基準と方法

出席とレポートによる総合評価。

なお、単位認定を受けようとするものは、キャリアパス多様化支援セミナーI・II・IIIおよびA-COLAのうち3つ以上に参加しなければならない。

#### ■ テキスト・教科書

#### ■ 講義指定図書

#### ■ 参照ホームページ

#### ■ 研究室のホームページ

#### ■ 備考

教養深化プログラムに参加する学生のための講義である。

履修者への連絡手段として、ELMSポータル(教育情報システム)(Educational Information System)を使用するので、履修者はあらかじめ、ELMSのIDを取得し、メールアドレスを登録しておく必要がある。

キャリアパス多様化支援セミナーI・II・IIIおよびA-COLAに参加するためには、講義の履修登録とは別に、人材育成本部のHi-Systemに登録する必要がある。

<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System/public/index.php#top>

#### ■ 更新日時



北海道大学シラバス					
■■ 科目名					
大学院共通授業科目（一般科目）：複合領域					
■■ 講義題目					
キャリアマネジメントセミナー（MOT関連）					
■■ 責任教員（所属）					
吉原 拓也(人材育成本部)					
■■ 担当教員（所属）					
樋口 直樹(人材育成本部) 伴戸 久徳(大学院農学研究院) 金子 純一(大学院工学研究院) 佐伯 宏樹(大学院水産科学研究院) 吉原 拓也(人材育成本部) 川口 暁弘(大学院文学研究院)					
■■ 科目種別	大学院共通授業科目			■■ 他学部履修等の可否	可
■■ 開講年度	2019	■■ 期間	1 学期	■■ 時間割番号	101257
■■ 授業形態	講義	■■ 単位数	2	■■ 対象年次	～
■■ 対象学科・クラス				■■ 補足事項	
■■ ナンバリングコード	IGS_IDS 9200				
■■ 大分類コード	■■ 大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
■■ レベルコード	■■ レベル				
9	その他（海外への留学を内容とするものなど、レベル分けが出来ない科目）				
■■ 中分類コード	■■ 中分類名称				
2	キャリアマネジメント				
■■ 小分類コード	■■ 小分類名称				
0	キャリア形成				
■■ 言語					
日本語で行う授業					

## ■■ キーワード

キャリアマネジメント（Career Management）、研究マネジメント（Research Management）、MOT（Management of Technology）、すべての仕事に必要な基本スキル（Transferable Skills）、イノベーション（Innovation）、マーケティング（Marketing）、知的財産（Intellectual Property）、プレゼンテーション（Presentation）、アントレプレナーシップ（Entrepreneurship）、コンプライアンス（Compliance）、企業における研究開発（Industrial R&D）、リーダーシップ（Leadership）、グローバル人材（Global Human Resource）

## ■ 授業の目標

グローバルな視野を持ちイノベーションを興す、将来のリーダーとなる人財を育成する。  
社会の様々な仕事環境において共通して必要となる考え方と実践的なスキル（Transferable Skills）を学ぶ。

## ■ 到達目標

- 1) 大学院での研究活動と社会活動との繋がりをより明確に自覚する。
- 2) 大学院の研究と企業の研究・開発の考え方の違いについて理解する。
- 3) キャリアパスについての意識をより明確に持ち、自己のキャリアマネジメントに活用する。

・大学での研究が発展して社会で実用化されるまでのプロセスと必要となる考え方を学ぶ。企業におけるその実例を学習する。そのためにMOTの手法を取り入れる。さらに、種々の職業で共通して必要となる考え方とスキル（Transferable Skills）を学ぶ。  
・企業経験を有する大学教員および企業から招いた実務担当者による講義（15コマ）を通じて、個々の大学院生が深化させている研究活動と、社会における活動（研究・開発・事業化・産業化）との繋がりを明確に理解する。自己の適性と将来の夢やビジョンを勘案し、自己キャリアのデザインと具現化（キャリアマネジメント）を目指す。

## ■ 授業計画

スケジュール概要：

- 1) 履修希望学生に対するガイダンス
- 2) 履修登録
- 3) 講義受講（全15コマ；学外・企業からも講師を招聘し、企業における研究開発の最新の事例や考え方を学ぶ。）
- 4) 最終講義終了後 レポート提出

※ 函館キャンパスには双方向の遠隔講義として配信されます。

※ 函館キャンパスでも講義を行い、札幌キャンパスへの中継を予定しています。

注意事項：

受講するには履修届と同時に、Hi-Systemへの登録および登録後、Hi-System上で本講義（イベント）への受講申込が必要。  
Hi-System上にアップロードする形式でレポートを提出するため、申込がなければレポート提出不可。

<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System/public/index.php#top>

講義内容：

ガイダンス（30分）、及び、基礎研究から新事業への道（60分）

イノベーションを起こす

企業の種類と分析

知的財産権

アントレプレナーシップ

プレゼンテーション

マーケティング

商品創造/新商品開発

発想法

企画書の書き方

企業（1）：先端技術と新規事業

企業（2）：先端技術と新規事業

企業（3）：先端技術と新規事業

企業（4）：先端技術と新規事業

リーダーシップ、まとめ

単位取得のためには、15コマ終了後、レポート提出が必須。

（レポートのテーマについては授業中に発表する）

授業の内容、日時、会場等は、下記ホームページをチェックすること。

[http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/cgi-bin/index.pl?page=contents&view\\_category\\_lang=1&view\\_category=1143](http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/cgi-bin/index.pl?page=contents&view_category_lang=1&view_category=1143)

## ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

授業前：事前課題を課する場合がある。その場合は授業中に予め周知する。

授業中：講義のポイントや講師への質問をメモすること。



授業後：学習した内容を総動員してレポートを作成し提出する。

#### ■ 成績評価の基準と方法

出席状況、授業における学習 および提出レポートの内容により総合評価する。  
秀・優・良・可・不可で評価する。

#### ■ テキスト・教科書

市販のテキスト・教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。 Handouts will be distributed as necessary.

#### ■ 講義指定図書

#### ■ 参照ホームページ

<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/S-cubic>

[http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/cgi-bin/index.pl?page=contents&view\\_category\\_lang=1&view\\_category=114](http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/cgi-bin/index.pl?page=contents&view_category_lang=1&view_category=114)

<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System/public/index.php#top>

#### ■ 研究室のホームページ

<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/S-cubic>

<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System/public/index.php#top>

#### ■ 備考

教室の収容制限があるため、札幌キャンパスの受講者に関しては履修登録をしても、Hi-Systemでの登録の早いものから350名で締め切る場合があります。

#### ■ 更新日時

2019/01/24 16:43:00